

## 平成20年度 事業報告

第三セクター 職業訓練法人  
長崎能力開発センター

### 総 論

平成20年度の長崎県における民間企業の障がい者実雇用率は、2.01%（全国平均1.59%）で全国第5位の好成績であったものの、景気が低迷している中において、障がい者を始めて雇い入れる事業所の開拓においてはかなり厳しい状況が続いている。

当センターにおいても「長崎県の収支構造改革」に同意する事となり、平成20年度は、「New 長崎能力開発センター」の体系づくりを模索し、形作りを行った1年であった。結果的として、各関係機関の協力のもと、職業能力開発促進法と障害者自立支援法の組み合わせにより、職業と生活を一体的にとらえての2年間の能力開発訓練が継続可能となった。

さらに「畜産科」に替わる訓練科目を「園芸科」と決定し、訓練施設の建設に着手し、完成目前となっている。

その様な中で、当センターの責務である①知的障がい者の能力開発訓練を行い、就労及び職場定着の促進を図る（訓練の側面） ②能力開発訓練に関する調査研究を進めることにより障がい者の雇用拡大を図る（調査研究の側面） つまり、訓練と調査研究の両面から障がい者の職業的自立促進を目指し事業を実施した。

能力開発訓練の面では、第21期生においては20名中1名の訓練生が途中退校となったが、厳しい情勢の中、**19名全員の就職を決定**することが出来、新規開拓事業所は4社であった。しかしながら、雇用条件、労働時間等は厳しいものがあつた。

訓練内容においては、養護学校（高等部）等の新規卒業者が入校生の大半を占める中で、基礎トレーニング（労働基礎習慣・体力・精神力）が課題として見えてきたため、基礎能力を強化する体制を整え実施した。確実に効果は見られたが、その能力を実際の職場で発揮するためには、応用力という新たな課題が見えてきた。

また、2学年次には個別指導を強化していく中で、実習に出してのフィードバックの重要性が改めて認識できた。

認定職業訓練（短期訓練 2日間）を麵製造科に続き、畜産科においても実施し（各5名）在職者の技術向上を目的とした追訓練を実施した。訓練受講者からも好評であり今後も継続して実施していきたい。

一方、調査研究事業としては、第19回・修了生実態調査をまとめ、特に離職の状況に焦点をおく中で、定着支援の体制整備・強化の必要性、並びに企業ニーズに応じた職業訓練の強化充実が課題となった。これらの反省を基に21年度の事業展開を行っていきたい。

事業面では、麵製造科においては、生産量は予定数を上回り、品質においても良質な製品を製造することができた。畜産科は格付け及び市場価格の安定により、共に事業収入（訓練の果実）を予算額以上に生むことができた。

第23期の訓練生募集については24名の応募があり、選考委員会を3回開催し訓練生20名の選考を行い決定することができた。入校生募集に関しても、今後更に情報発信に努め積極的に実施していきたい。

今後とも、新訓練体制において、訓練効果・訓練収入の両方を満たし、よりいっそう専門性を高め実績（就職率・定着率）を上げる事により、選ばれる職業能力開発機関として役割を果たしていきたい。

平成 20 年度 事業報告

事業項目	実施項及びその概要	実施時期
1. 理事会、評議員会	(1)理事会 2回開催 (2)評議員会 1回開催	6月 3月 3月
2. 監査	(1)役員監査 1回開催 (2)長崎県局員監査 1回開催 (3)長崎県委員監査 (4)認定訓練監査 1回開催	6月 10月 2月
3. 能力開発訓練事業 ①特別委託訓練 普通職業訓練 普通課程 (長崎県立長崎高等技術専門校の委託訓練)	(1)職業訓練部(職業基礎訓練、職業学習、個別指導他) 平成 20 年度のテーマを「常識ある人材の育成・たくましい体とたくましい精神力の育成・表現(個性)豊かな人材の育成」とし、礼儀、就業意欲、精神力等の基礎能力向上を重点に訓練を行い、効果が得られた。 【今後の課題】 ・個別指導がセンター内での訓練に偏りすぎた ・体験実習からのフィードバックの重要性 ・発達障がい・精神障がいを伴う訓練生への特性に応じた個別指導の実施	通年
	(2)麵製造科 1 学年訓練生 10 名 2 学年訓練生 10 名 労働習慣確立・職業意識向上を目指し、一般企業により近い環境下で緊張感を持って職業訓練を実施した。	通年
	(3)畜産科 1 学年訓練生 10 名 2 学年訓練生 10 名 平成 21 年 2 月末には在庫頭数 0 頭となり、訓練内容は飼育管理作業から衛生管理へと重点を移し、新しい訓練科目(園芸科)の体験実習も実施した。 1 学年生は 20 名全員が 2 学年へ進級 2 学年は 19 名が就職し平成 21 年 3 月修了(1 名途中退校)	通年
②認定訓練 普通職業訓練 短期課程(16 時間)	(1)麵製造科 6 名 (2)畜産科 5 名 在職労働者のスキルアップ、職業学習(再確認)という位置づけで、麵製造科、畜産科で実施した。	12 月 11、10 月

<p>③生活訓練</p>	<p>(1)寄宿舎(アガペ寮、カナン寮)</p> <p>基本的な生活習慣の確立、健康管理、パトロールリングシステムの充実により基礎能力向上を目標に取り組む。</p> <p>地域で生活している<u>修了生を有料サポーター</u>としてアガペ寮（1年生）の生活訓練に参入してもらい効果が上がった。</p> <p>(2)古部分寮(雲仙市瑞穂町)</p> <p>地域生活の中で社会適応力、自立心を高め、地域生活移行を円滑に図るために、瑞穂町内の一戸建借家にて訓練を実施する。単身生活実習、グループ実習を積極的に実施した。（平成21年4月で終了）</p> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修了生有料サポーターや週番生徒の積極的活用 （修了生、上級生からの指導・助言・相談）</li> <li>・学習指導の充実、徹底</li> <li>・保護者との信頼関係の構築</li> <li>・基本的な生活習慣の習慣化</li> <li>・職員への依存心（支援の加減）</li> </ul>	<p>通年</p> <p>通年</p>
<p>④進路指導 （第21期生）</p>	<p>(1)職業進路</p> <p>2学年生19名の就職が決定（別添資料参照） 一般就労13名（68%）就労継続支援A型6名（32%） 製造業6名、小売業・飲食業8名、サービス業5名 新規開拓企業4社</p> <p>労働条件面で勤務時間の短縮化が見られ、所得保障の面での苦慮があった。</p> <p>(2)生活進路</p> <p>自宅6名、通勤寮・宿泊型自立訓練10名、 グループホームケアホーム3名</p> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業意識の強化</li> <li>・進路指導のテンポアップ</li> <li>・体験実習の多様化が必要</li> <li>・関係機関との連携強化（ネットワーク作り）</li> </ul>	<p>通年</p>

<p><b>4. 調査研究事業</b></p>	<p><b>(1) 能力開発訓練研究委員会開催 (2回)</b></p> <p>&lt;構成メンバー&gt; 長崎県産業人材課、長崎県障害福祉課、長崎県特別支援教育室、諫早職安、長崎高等技術専門校、長崎県雇用支援協会、長崎障害者職業センター 長崎障害者就業・生活支援センター</p> <p>&lt;主な議題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訓練体系変更に至る経過報告</li> <li>・ 職業能力開発訓練体系の変更について</li> <li>・ 生活訓練体系の変更について</li> <li>・ 入校生募集、選考から修了までの手順について</li> <li>・ 各関係機関への周知について 他</li> </ul> <p><b>(2)実態調査の実施</b></p> <p>修了生を定期的に追跡調査し職場定着率、離職の実態等の問題点を明らかにし、当センターの能力開発訓練プログラムの改善はもとより、広く障がい者の雇用促進・職場定着につなげたい</p>	<p>8月、3月</p> <p>3月</p>
<p><b>5. 研修啓発</b></p>	<p><b>(1)職員研修 (外部の研修会、セミナーに参加)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会福祉法人南高愛隣会 福祉のトップセミナー</li> <li>・ 全国就業・支援ネットワーク定例研究・研修会</li> <li>・ 職業リハビリテーション実践セミナー</li> <li>・ 職業リハビリテーション研究発表会</li> <li>・ ジョブコーチセミナー</li> <li>・ 就労支援セミナー</li> <li>・ 障害者能力開発指導者交流集会</li> <li>・ 長崎県サービス管理責任者研修</li> <li>・ 各特別支援学校主催の研修会</li> <li>・ 地域育成会勉強会</li> <li>・ 発達障害関係セミナー</li> <li>・ 新任職員研修 (6ヶ月間) 他</li> </ul> <p><b>(2)情報発信</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホームページの更新 (外部業者検討)</li> <li>・ 機関紙「ひとり立ち」発行 (1回)</li> <li>・ パンフレット作成</li> </ul> <p><b>(国際交流)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 韓・日知的障害者サッカー交流大会 (韓国)</li> </ul>	<p>随時</p> <p>随時</p> <p>8月</p>

<p><b>6. 社会定着推進事業</b></p>	<p><b>(1)アフターフォローセンター（長崎市 佐世保市）</b>  近年の定着率低下への対策として、長崎市と佐世保市にアフターフォローセンターを構え、担当職員を派遣し進路指導課と連携し、定着支援に積極的に取り組んだ結果として、定着率の向上につながった。</p> <p><b>(2)関係機関との連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認定職業能力開発校担当者会議</li> <li>・ 長崎県アビリンピック出場（訓練生）</li> <li>・ 障害者雇用連絡会議（諫早職安）</li> <li>・ 長崎障害者就業・生活支援センター運営協議会</li> <li>・ 長崎高等技術専門校「技能のひろば」出演（訓練生）</li> <li>・ 長崎県職業リハビリテーション推進フォーラム</li> <li>・ 県南、県央就労支援ネットワーク協議会</li> </ul>	<p>通年</p> <p>随時</p>
<p><b>7. 育成会活動</b></p>	<p><b>(1)内部行事に終始せず、研修会や見学会を実施し内容を広げる</b></p> <p>&lt;主な活動内容&gt;</p> <p>授業参観            1回開催(1学年)(12月)</p> <p>研修・見学           3回開催(理事長講演、障害者就業・生活支援センター講話、職場及び地域生活の場見学)</p> <p>学年部会            6回開催</p> <p>レクリエーション   2回開催 (スポーツ&amp;バーベキュー)</p> <p>懇談会（懇親会）   1回開催</p>	<p>通年</p>
<p><b>8. 事業面</b></p>	<p><b>(麺製造科)</b></p> <p>年間素麺総生産量は 10,373 ケース(9 kg箱)であり、目標値(10,321)を上回る。小麦粉の値上げはあったが、生産量、品質管理共に目標達成ができ、事業収入は予算額を上回る。</p> <p><b>(畜産科)</b></p> <p>年間出荷頭数 肉豚 947 頭（総出荷 1,005 頭）は目標値の 1,020 頭より 73 頭減少したが、枝肉格付の良好、市場価格の安定、減産の為飼料費支出の削減により、予算額を大幅に上回る事業収入を上げることができた。</p> <p>平成 21 年 2 月に全ての豚の出荷が終了する。</p>	